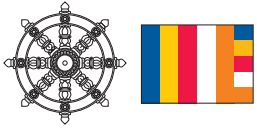


ZENBUTSU



# 全仏

No.  
563

仏暦2553年10月  
[2010年]



岡山県高松地区 文英石仏 — 撮影 仏像ガール®

目次	加盟団体をゆく 第38回 臨濟宗円覚寺派	2
	理事会・評議員会・参与会	4
	シンポジウム「葬儀は誰の為に行うのか？ ～お布施をめぐる問題を考える～」速報	5
	花まつりの全国展開推進に関して	6
	シンポジウム写真掲載	8
	本会推薦映画「手塚治虫のブッタ」のご案内	8

# 加盟団体をゆく

## 《第三十八回》臨濟宗円覚寺派

今回は臨濟宗円覚寺派の本山円覚寺をお訪ねし、横田南嶺管長、今杉康道宗務総長にお話を伺いました。円覚寺はJR横須賀線「北鎌倉駅」下車徒歩一分という好立地ながら、伝統ある佇まいを現代に受け継いでおり国内外の多数の参拝者で常時賑わっています。

— 貴宗派で継続的に、もしくは最近力を入れている活動に

— 関してお聞かせ下さい —

円覚寺は、開山が中国宋の高僧無学祖元、開基は時の執権北条時宗で、弘安五年に開堂供養が行われました。

創建の主旨は、国家鎮護と仏法紹隆、及び当時二度に渡る元寇における敵味方の戦没者の菩提を、怨親平等の精神に基づいて弔うことにありました。

そうした、誰も差別をせず弔う



横田南嶺臨濟宗円覚寺派管長

誰にでも開かれた寺院を、という創建の精神を受け継いで、「より多くの方に、参加のしやすい仏教講座を開催したい」と朝比奈宗源管長（別峰老師）が発願、戦前より「円覚寺夏期講座」を開始しました。今年も第七十五回を七月に開催いたしました。

他の講座ではなかなかお願いが難しい講師の方も「円覚寺の夏期講座なら」と講演を快諾頂けるケ

ースもあり、大変嬉しく思います。先人の御恩に報いるべく、今後も毎年開催を予定しております。

こちらの夏期講座の投宿研修には事前の申込みが必要ですが、円覚寺では「坐禅を開放すること」に力を入れており、坐禅会・法話会は一部を除いて予約不要で誰でも参加が可能です。

例えば「日曜説教会」は、第二日曜日には管長自ら法話を行います。土曜は午後より坐禅のみの「土曜坐禅会」を開催しており、大勢の参加者で賑わいます。また、毎朝早朝には「暁天坐禅会」を開催しています。

また、年二回、夏目漱石の小説の舞台にもなったと言われる居士林において泊まり込みの学生坐禅会を開催しています。

こちらは僧侶の修行道場に準じた内容なので厳しい生活が待っています。竈で炊飯を行い、携帯電話の使用も制約される生活を体験することによって、連帯感が生まれたり、日常の悩みからひとときとはいえ解放される場合もあります。

す。情操的に良い影響があれば、と期待しております。

他、ホームページや年四回の会報誌の発行を通じて広報活動を行っております。円覚寺派は所属寺院が二〇九ヶ寺という規模的には小さな宗派ですが、会報誌は各寺院を通じて信徒に配布されており、お盆号は二万部以上が配布されております。

今後も先人から受け継いだ伝統を守りつつ、より細やかな布教活動を行っていききたいと考えております。

— 現代社会に対する思いを

— お聞かせ下さい —

教育に関する問題に対しては非常に憂慮しております。公教育において宗教が排除されてしまい、人々が心のよりどころや、見えぬものに対する畏敬の念等が失われてしまい、悲惨な事件や信じられないできごとが続発する原因の一端になってしまっているのでは、と思います。

こうした方々に対して、我々も

寺院をできる限り開放して力になりたいと願っておりますが、不登校や引きこもり等、「学校、病院、寺院等に来る事ができない」方々の方がより深刻なケースである場合が多いです。そうした方々に今後、インターネットやその他何ら



舍利殿 (国宝)

**舍利殿 (国宝)**

源実朝が宋の能仁寺から請来した仏牙舍利を奉安する堂宇。鎌倉時代に中国から伝えられた「唐(から)様式」を代表し、その最も美しい建造物として国宝に指定されている。

か的手段を通じて心の安らぎを提供することができないか、方法を模索しております。

— 仏教界に対する思いを —

お聞かせ下さい

現代最も僧侶に求められているのは、高圧的な態度で布教を行うのではなく平等の精神で、ともに汗を流して布教活動を行う事だと思います。そのためには徒弟教育に今以上に力を入れるべきではないか、と思います。

葬儀や墓地に関する問題も近年注目されておりますが、地域差も大きく、また歴代の伽藍を守り続けている寺院と、全くそうしたものを持たない、もしくは必要としないケースが全てひとくくりで論じられるのはいかがなものか、と感じています。

そうした時事的問題に対しても、人々の声や世間の声に真摯に耳を傾けて、宗派の枠を超えて問題意識を共有して今後を生かしていく事が肝要と思います。

— 全日本仏教会に対する —

ご要望やご意見を

お聞かせ下さい

研修会をはじめとした人権に関する取り組みや、朝鮮半島出身の旧民間徴用者等のご遺骨返還についての取り組みなどは、円覚寺派だけでは情報収集や行政とのやりとりが非常に難しかったので大変助かりました。

今後も、例えば神奈川県で今年四月から開始された「受動喫煙防止条例」に対して各寺院や宗派ではどのように対応しているのか、といった時事的な問題に対して情報提供を頂けると非常に役立つのではないかと思います。

ホームページに関しては、円覚寺でも今年7月にリニューアルを行ったばかりです。今後イベントの掲載等、より広報的連携を深めていければ、と思います。

臨済宗円覚寺派ホームページ  
<http://www.engakuji.or.jp/>

表紙写真紹介

「岡山県高松地区 文英石仏」

大きな石にレリーフのような感じで彫られたお地藏さま。まあるいお顔に大きな鼻、まるでお相撲さんのようなどっしりとした個性的なお姿は、「文英石仏」といって、文英さんというお坊さまが彫られたものです。

水攻めで有名な高松城があった岡山県岡山市の高松地区では、その戦いで亡くなった方々を供養するために、たくさんのお地藏さまが彫られたといわれています。今でもこのあたりには文英石仏が一〇〇体ちかく残っていて、お家のすぐ横、大きな道沿い、田んぼの中……など、いらっしやる場所もさまざま。地域の人たちの生活の中にとけ込んでいる、「あたりまえ」のような仏さまです。

表紙の写真のお地藏さまは、田んぼの真ん中に堂々と立っていらっしやいます。ちょうど稲刈りが終わった秋の季節。「今年もお地藏さまのおかげで、いっぱいお米が収穫できました」地域の人たちの感謝の声がかえってきます。

仏像カール®

## 理事会・評議員会・参与会開催

九月十六日に東京グランドホテルにて開催された。今回の理事会・評議員会・参与会は臨時に招集され、主に公益財団法人への移行に

関しての議案が話し合われた。

開会后、本会寄附行為に基づき、理事会議長は有田恵宗理事長が務め、評議員会議長には四之宮弘孝評議員（高野山真言宗）が選出された。

議事は、まず理事会議案第一号、「評議員の変更について承認を求めめる件」が審議され、全会一致で承認された。

### 退任

佐伯 龍幸（真言律宗）

高岸 義昭（滋賀県仏教会）

津村 泰雅（愛媛県仏教会）

### 就任

佐伯 快勝（真言律宗）

前阪 良憲（滋賀県仏教会）

御木 徳久（愛媛県仏教会）

続いて、評議員会・参与会の議

案第一号が審議された。

・本財団の公益財団法人への移行について承認を求めめる件

#### ①定款（案）

②理事・監事及び評議員に対する報酬等支給基準規程（案）

に関してコンサルタントを依頼している朝日ビジネスソリューション担当者及び事務局より説明が行われた。質疑応答の後承認を求め、両案件とも全会一致で承認された。

続く理事会においては、評議員・参与会の議案を引継ぎ、左記内容について審議が行われた。

#### ①定款（案）

②財団法人全日本仏教会における最初の評議員選任方法（案）

③評議員選定委員会委員候補者

#### （案）

質疑応答の中で事務局より、改めて今年度中の申請を目指していること、行政指導のモデル定款に

できる限り準拠した内容で定款を作成していること、運営の規定を作る事を優先している事等が説明され、全ての案件が全会一致で承認された。

特に定款については、今後内閣府公益認定等委員会との折衝において字句・文言・訂正等が指示される可能性が予測されるが、重大な変更が無い場合、理事長判断で表記が変更できる事も含めて承認された。

・大蔵経テキストデータベース運用に係る経費について賛同を求めめる件

理事会、評議員会、参与会共通の協議事項のため一括審議された。

事務局より大蔵経テキストデータベース化の経緯と過去の支援について説明。続いて運営に係る経費の財政支援の為に平成二十三年四月から三年間、一年間二千八百万円を目標として加盟団体に募金協力をお願いする勧募案の説明が行われ、全会一致で賛同を得た。

### ・報告事項

理事会、評議員会、参与会共通事項のため、一括して報告された。

社会人権部より、加久保範祐部長が、イオンリテールが全国展開した「イオンのお葬式」に関してイオンに意見書提出及び会談を行った経緯について報告。続いて、九月十三日に秋葉原にて開催したシンポジウムについて報告を行った。（関連五頁）

総務部より奈良慈徹部長がイオン問題を中心として、取材を受けた報道機関名や掲載媒体について報告。

財務部より垣内善勝部長が、救済基金報告と会計基準の移行について報告。

国際部より入西智彦部長がWFBスリランカ大会への会議出席予定者の報告、及び記念ツアーへの参加呼びかけがなされた。

広報文化部より西野良嘉次長が本会推薦の東映映画「手塚治虫のブッダ」と「花まつり」のポスター共同企画製作について報告。（関連六頁及び八頁）

## 葬儀は誰の為に行うのか？

「お布施をめぐる問題を考える」

シンポジウム開催

本会主催の公開シンポジウムが九月十三日午後六時より、秋葉原ダイビル二階コンベンションホールにて行われ、報道陣を含む約三百五十名が参加した。

開会にあたり、奈良慈徹総務部長より当初の定員を大幅に上回る参加希望を頂いたこと、改めて葬儀に関する諸問題への関心の高さを感じた事などが述べられた。

続いて戸松義晴事務総長より開催主旨の説明及び各講師の紹介が行われ、各講師によるテーマに沿った講演が約十五分ずつ行われた。テーマと講師は左記の通り。

一、最近の葬儀事情(データ解説)

石田 佳宏 氏

(大和総研主任研究員)

二、寺檀関係の変化

中島 隆信 氏

(慶應義塾大学商学部教授)

三、僧侶と檀信徒の関係とは

碑文谷 創 氏

(葬送ジャーナリスト)

四、一般の方々が納得する葬儀と

は

玄侑 宗久 師

(芥川賞作家 僧侶)

石田氏は葬儀事業を取り巻く現況をデータに基づいて解説。出生、死亡数の推移から二〇四〇年が死亡数のピーク、つまりは葬儀数のピークであることや、葬儀業者へ支払う費用の推移について説明された。また、葬儀を行う際に「宗教に関係無いかたちで」行いたいという割合は、世代が若くなるほど多くなる、というインターネット上のアンケート調査結果も報告された。

中島氏はイオンが全国展開にてお布施の目安を提示した事例を「AEONショック」と題して紹介。背景として寺檀関係の希薄化により葬儀の宗教的意味合いが薄れ、葬儀のサービス化、料金化が国民

に違和感なく受け入れられていると指摘。今後は寺院数の大幅減少や檀家寺が葬儀社の傘下になる事態を招く、と述べた。

碑文谷氏は現代葬儀について「日本仏教と葬式」「寺檀関係」「布施」「都市化、経済成長」に関する経緯と問題点を説明。特に都市部の「宗教的浮動層」は「布施が寺を支える財源である」という意識はなく、これに便乗しているのが僧侶派遣のプロである、と述べた。また、遺族の悲嘆を癒すことに無理解な僧侶が実際に存在することも問題点として挙げられた。

玄侑師は「福島県三春市の自坊では個別的、歴史的観点をふまえて檀信徒の葬儀を行っている。個々の人たちにどれだけ寄り添えるかが葬儀では重要である」と葬儀に関する考えを述べた上で、都市部で行われている「宗教的浮動層」が行う個別的・歴史的な繋がりが何もない葬儀を全国的に展開していく事には賛成できないし、それらが全て同一の「葬儀」として論じられるのも問題である、と

述べた。

休憩を挟んだ後に、戸松事務総長をコーディネーターとしてパネルディスカッションが行われ、来場者の質問用紙より寄せられた質問の要約に講師四名が答えた。質問内容としては、

「布施と寺院のあり方について」「お布施の金額や戒名について、具体的にどう解決して行けばよいか」

「お寺のあり方を通して、地域との関係を作るには何が重要か」

「後継者をどう育成するべきか、その際何が重要か」

「寺院の公益性をどう考えるか」

等が寄せられ「菩提寺は選べない、と言うが、最近セカンドオピニオンが流行っているし、セカンド僧侶というのでもいいのでは(玄侑師)等、様々な意見が出される中、閉会となった。

※各講師のプロフィール及び講演内容に関する詳細は、今後の『全仏』誌において掲載を予定しております。

**全日本宗教用具協同組合との  
花まつり事業推進委員会開催**

九月八日午後四時より本会会議室にて開催。

この委員会は、本会が推進する「花まつりの全国展開」について、全日本宗教用具協同組合（以下全宗協）と協働・協力できる事業を模索するという目的のもと初の開催となった。全宗協より六名、本会より五名及び広報委員の新倉典生、東京都仏教連合会事務局長が出席した。

全宗協は、宗教用具（仏壇・仏具等）を取り扱う宗教用具業界における唯一の全国的組織の協同組合であり、本会「賛助会員」にも入会している。

花まつりの展開に関して「大人から子供へ言葉を送る日」として各種イベントを展開しては、との提案を本会より行い、毎年本会が無償にて配布している「花まつり絵はがき」を全宗協と本会の連名にて作成し無料配布しては、との協議がなされた。

全宗協からは、『日本書紀』の記述にちなんで制定されている「仏壇の日」の三月二十七日から「花まつり」の四月八日の期間を

重点的に、地域によっては五月の連休までの期間、協働事業を展開する事を考えている、と報告。

具体的には全宗協加盟の各仏具店に花御堂の設置を推進し、本会が作成している「花まつり絵はがき」や「花まつりポスター」等の掲示を行うこと、全宗協と本会で花まつり推進の共同ポスターの作成を行う等の提案がなされた。

特に共同ポスターに関しては、本会推薦の東映映画『手塚治虫のブツダ』（八頁参照）との連携が可能ならば、花まつり事業の推進に大いに効果があるのでは、との提案がなされ、今後の委員会にて検討される事となった。

次回委員会は十月二十八日に開催。  
全日本宗教用具協同組合ホームページ

<http://www.zenshukyo.or.jp/index.html>

**インパクト・インベストメント ～投資を通じた社会貢献～ 大和証券の取り組み**

◆インパクト・インベストメント

欧米では今、“インパクト・インベストメント (Impact Investment)” という新たなトレンドが動き出しています。インパクト・インベストメントとは、経済的な利益を生み出すと同時に、貧困や環境などの社会的課題に対して、より直接的で即効性のある解決を目指す投資のことです。投資リターンのみならず社会的リターンも期待できる、新しい投資のかたちといえます。

◆社会的課題の解決に向けて-大和証券の取り組み-

大和証券ではこれまで、調達資金をマイクロファイナンス(貧困層向け小規模金融サービス)に活用する『マイクロファイナンス・ボンド』等、社会貢献につながるインパクト・インベストメント商品を販売してきました。資金を必要としている人と資金を持つ人をつなぐという証券会社本来の役割を通じ、投資家の皆さまとともに、貧困をはじめとするさまざまな問題の解決に寄与していきたいと考えております。

冊子 無料進呈

冊子の内容を更新いたしました。

未来を創る投資  
インパクト・インベストメント  
～投資を通じた社会貢献～

ご希望の方はFAXもしくはハガキにてお申込みください。

※2010 Autumn版をお届けいたします。

請求先：大和証券(株)  
法人サポート部 公益法人担当係  
宛 先：〒100-6752 東京都千代田区丸の内1-9-1  
 Grantウキョウノスタワー  
FAX：03-5555-0701  
ご記入事項：貴法人名、所在地、お電話番号、ご芳名、所属・ご役職

※数に限りがございますので、品切れの際はご容赦ください。  
※ご記入いただいた情報は、当社または関連会社、提携会社の商品・サービス等のお客さまへのご案内、および商品開発やサービス向上のために利用させていただくことがございますので、あらかじめご了承ください。



**大和証券**

Daiwa Securities

※インパクト・インベストメントの詳細は、大和証券ホームページ内の特集ページでご覧いただけます。

※全日本仏教会ホームページの賛助会員一覧

「団体会員 大和証券(株)法人サポート部」からもご覧いただけます。

[www.daiwa.jp/impact](http://www.daiwa.jp/impact)

大和証券ホームページ [www.daiwa.jp](http://www.daiwa.jp)

# 事務総局録事

## 八月(十一日～三十一日)

- 十一日 ▼東映(株)村松氏来局
- 十二日 ▼シンポジウム打合せ碑文  
谷創氏来局
- ▼朝日ビジネスソリュート  
ヨン来局
- ▼無料法律相談室
- ▼念法眞教桶屋良祐教務総  
長来局
- ▼大和証券佐藤氏来局
- 十五日 ▼日蓮宗「第五十一回千鳥  
ヶ淵戦没者追悼法要並世  
界立正平和祈願法要」参  
列
- 十七日 ▼局内会議
- 十八日 ▼部落解放人権夏期講座参  
加(高野山会館ホール他  
至二十日)
- ▼シンポジウム打合せ  
大和総研石田佳宏氏来局
- 十九日 ▼常務理事就任宗派宗務総  
長・総長懇談会(於 京  
都 左阿彌)
- 二十日 ▼イオン来局

## ▼シンポジウム打合せ

中島隆信氏(於慶応大学)

## ▼経済産業省来局

二十五日 ▼厚生労働省遠藤氏来局

二十六日 ▼文化時報来局

二十七日 ▼BNN企画委員会

三十日 ▼臨済宗円覚寺派取材

三十一日 ▼シンポジウムリハーサル

## 九月(一日～十日)

一日 ▼朝日ビジネスソリュート  
ン来局

▼東京都慰霊協会主催秋季慰  
霊法要参列(於 東京都慰  
霊堂)

二日 ▼総務財政審議会

▼シンポジウム会場下見

▼BNN企画委員会出席(於  
庭野平和財団)

三日 ▼毎日エコノミスト編集部来  
局

▼週刊女性来局

▼第十九回ヒューマンライツ  
セミナー参加(大阪府立男  
女共同参画・青少年センタ  
ー)

五日 ▼大本山増上寺第八十七世成  
田有恒台下三回忌法要参列

六日 ▼ライフデザイン研究所佐々  
木氏来局

七日 ▼国際交流審議会

▼愛知県仏教会前会長近藤真  
道師来局

▼アリコジャパン来局

▼毎日新聞来局

八日 ▼全日本宗教用具協同組合と  
の委員会開催

▼無料法律相談室

九日 ▼全日本仏教徒会議栃木大会  
実行委員会出席(於 観専  
寺)

▼仏壇公正取引に係わる説明  
参加(経済産業省)

十日 ▼局内会議

▼東映(株)来局

▼イオン来局

▼NHK来局

## 地域仏教会情報募集のお知らせ

全日本仏教会では、地域仏教会の情報を募集しております。仏教会の活動や取り組みに関してのご寄稿・写真を左記事務総局までお寄せ下さい。

※都道府県仏教会、市町村仏教会及び本会未加入の仏教会の情報も歓迎致します。

全日本仏教会 広報文化部  
電話 〇三―三四三七―九二七五  
FAX 〇三―三四三七―三二六〇  
Email: kouho@jblne.jp

## 機関誌『全仏』

### 広告募集のお知らせ

機関誌『全仏』は、月間一万部発行され、全日本仏教会加盟団体・各地の寺院の方に購読されております。(年一〇回発行)

広告掲載ご希望の方は、左記全日本仏教会事務総局までお問い合わせ下さい。

※掲載内容により、若干の変更を、お願いする場合がございます。ご了承下さい。

全日本仏教会 広報文化部  
電話 〇三―三四三七―九二七五  
FAX 〇三―三四三七―三二六〇  
Email: kouho@jblne.jp

## 無料法律相談室

長谷川正浩弁護士、  
本会顧問弁護士の、  
無料法律相談を毎月  
第二、第四木曜日の  
午後開催しております。  
本会事務総局03  
(3437)9275へ事前予  
約の上おいで下さい。

# 「葬儀は誰の為に行うのか」シンポジウム写真集



各講師によるプレゼンテーションが行われた



コーディネーターを戸松義晴事務総長が務めた



寄せられた質問を元にパネルディスカッションが行われた



報道陣も多数取材に訪れた

## 本会推薦映画

### 手塚治虫の ブッダ—赤い砂漠よ! 美しく— のご案内

- 文化庁芸術振興補助金助成
- 全日本仏教会推薦
- 2011年5月28日(土)全国ロードショー

世界中から愛され続ける「手塚治虫のブッダ」が遂に映画化されます。

全三部作の第一部キャスティングに吉永小百合、堺雅人、吉岡秀隆を擁し、壮大なくいのちのドラマを描きます。

皆さま是非映画館へ足をお運び下さい。

詳細は下記HPにてご確認下さい。

<http://www.budha-movie.jp>

